

古里をPR ようこそミニ一関へ

割り当てられたブースの広さは8坪×25坪。200平米を古里一関に見立て、「行ってみたい」と思わせるプロモーションを繰り広げた

風土と名所を写真で紹介



市民から集めた一関の好きなおとろを「だいき」と題して展示。大きく伸ばした観光地の写真やイベントのぼり旗も飾られた。

厳美溪の名物を体験



「かっこういちのせきハラミ焼」は、引換券をかごに入れ、合図を送ると、4坪の高さから商品の入ったかごが届く仕組み。厳美溪の「空飛ぶ団子」を模した。

福島への応援メッセージ



福島の復興を願う気持ちをメッセージにしてつづった。郡山市立大島小学校児童クラブからは一関を応援するのぼり旗が届いた。

歌と踊りでヒートアップ



ブース内やステージでも一関をアピール。「いちのせきハラミ焼の歌」に合わせてダンスを披露すると、会場は大いに盛り上がった。



3



2



7

1_ 激動の二日間を終えた「なじよったべ隊」。ボランティアも応援に駆け付けた／
2_ 休む暇なく盛り付けを続ける隊員たち／
3_ 「ありがとう」会場では感謝の言葉が連鎖した／
4_ 開会式では59団体が古里のPRを誓う／
5_ 隊員たちは「一関」を背負って鶏ハラミを焼いた／
6_ まとめ買いする家族連れも多くみられた／
7_ いちのせきハラミ焼を求める列は途切れることがなかった



1

全国に一関を発信

ついにこの日を迎えた。来場者数45万3千人。国内最大級のまちおこしイベントB-1グランプリ。「いちのせきハラミ焼なじよったべ隊」はボランティアを含め50人が力を結集した。

大好評、途切れぬ行列

「ウマっ!」と言わずには
いられない。

鶏ハラミのコリコリ、タマネギとニンニクの芽のシャキシャキ。異なる二つの食感、パンチの効いた特製味噌ダレ、香ばしいゴマの風味は、旨さの三重奏。箸が止まらない。列の先頭、福島県本宮市の会社員鈴木秀子さんは「会社の同僚からおいしいと聞いて、この日を楽しみにしていた」とにっこり。猪苗代町の地方公務員大坂圭さんは「初めての食感。くせになるうまさ」と絶賛した。

最大30分の待ち時間を利用して隊員たちは、写真、資料、

一関の魅力を全国へ

「いちのせきへようこそ」隊員たちの元気な声が、次々とブースに客を呼び込む。開成山公園陸上競技場に設けられた「いちのせきハラミ焼なじよったべ隊」のブース（間口8坪、奥行き25坪）前には百人以上の長蛇の列。初出展とは思えない注目度だ。

6台の鉄板はフル回転。ジュージューと鶏ハラミを焼き上げる音に食欲がそそられる。鶏ハラミは、鶏モモ付け根付近の腹膜。鶏一羽（約2500グラム）からわずかに20グラム程しか採れない。この貴重な鶏ハラミを特製味噌ダレで味付け、タマネギ、ニンニクの芽と豪快に焼き上げるのが「いちのせきハラミ焼」だ。

マイクパフォーマンスなどで古里一関をPR。中でも、*かっこう団子にちなんだ「かっこういちのせきハラミ焼」は大好評。待ち時間も楽しめる最大級のおもてなしで、多くの人の心をつかんだ。開始から6時間、ブース前の行列が途絶えることはなかった。

ファンに聞いた「いちのせきハラミ焼」の魅力

渡邊 みな美さん 郡山高校3年

放送部の大会で一関に行ったことがあります。パンフレットで見かけ、大勢の人が列を作っていたので買ってみました。味噌と唐辛子が合いますね。とてもおいしかったです。



野澤 憲一郎さん 会社員

青森県十和田市の出身です。現在は郡山に住んでいて、一関は通り道といった印象でした。いちのせきハラミ焼は新聞で知り、興味を持ちました。楽しみにしていたので、思わず2パック購入しました。



*かっこう団子：磐井川中流の溪谷・厳美溪をロープで横断させる団子の提供方法。「かっこう屋」が提供する